

〔科目名〕 金融経済学Ⅱ				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 基幹科目	
〔担当者〕 山本 俊 Yamamoto Shun			〔オフィス・アワー〕原則、研究室在室時は受付。 時間:授業開始時にお伝えします。 場所:授業開始時にお伝えします。			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 金融経済学Ⅰでは、金融取引をミクロ経済学の視点に立って学修しました。一方、金融経済学Ⅱでは、金融経済学Ⅰで学んだことを踏まえつつ、金利の期間構造に関する諸仮説を学修した後に、マクロ経済学の視点に立ち、貨幣理論や金融政策の役割や限界、金融危機について学修します。その上で、金融システムの秩序維持政策について学修します。 授業では、「何故なのか」という視点を大切にしつつ、学修内容の理解を深めるため、公務員試験問題や金融系諸資格の試験問題等を練習問題として取り入れ、授業内容に準拠した復習用の確認問題を配布します。授業資料の復習や確認問題を解くことで、考え方や知識を定着させてください。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 1. 他の科目との関連付け 金融経済学Ⅱでは、マクロ経済学やミクロ経済学が常に応用されます。ここでの学修内容は 3 年次秋学期配当科目の「金融機関論」にて応用されます。 2. なぜ学ぶ必要があるのか・学んだことが何に結び付くか 新 NISA が開始されて既に 1 年が経過しています。これは個人の資産運用を支援する政策とも言え、特に、金利のある世界に住み、長期投資が可能な皆さんにとって、金融資産の保有は大きな資産を形成し得る機会となります。当然、企業においても資産保有の在り方を見直す必要性は高まっています。こうしたとき、金融政策の効果や金融秩序維持、金融危機に関する理解を深めることは、保有する資産の形成や安全性の向上に直結することは明らかであり、学ぶ意義は大きいと言えます。							
〔科目の到達目標〕 ・金融政策の目標、手段、限界を説明でき、金融政策の効果を正しく見通すことができる。 ・金融危機による弊害と金融秩序政策の意義と課題を正しく説明できる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4 ○	DP1 ○	DP2	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 この科目を青森公立大学にて担当したことはないため、該当しません。							
〔教科書〕 金融経済学Ⅱでは教科書を使用せず、配布する授業資料に基づいて授業を進めます。 なお、授業資料の作成では、主に、下記の指定図書、参考書を参照しています。							
〔指定図書〕 内田浩史『金融〔新版〕』有斐閣、2024 年							
〔参考書〕 参考書1: 晝間文彦『金融第 4 版』新世社、2024 年 参考書2: 福田慎一『金融論市場と経済政策の有効性【新版】』有斐閣、2020 年							

【前提科目】 マクロ経済学、ミクロ経済学、金融経済学Ⅰ ただし、上記3科目のいずれかの単位を修得していない学生も、本科目を履修できます。	
【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等) 以下の方法によって成績評価します。 ①授業内クイズ:30%(第11回目の授業内で実施予定です。理解を深められるよう授業内で解説します。) ②期末試験:70%(択一式と記述式の併用) ※評価の前提として、原則、全授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。	
【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】 ①この授業においては、「何故なのか」という視点に立ち、理論的、実証的根拠のある解説を強く意識します。 ②前提科目の基本事項は授業内でも可能な限り補足説明するよう意識します。 ③学生が授業内容を聴き、考える時間と、学生が授業内容を整理する時間を区別するよう意識します。 ④第1回目の授業内ガイダンスにおいて、授業の進め方や評価方法などについて補足説明します。 ⑤学生には、他の受講生を意識した高い受講マナーを期待します。	
【実務経歴】 特に、なし。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス、金融経済学Ⅰの復習(1) 内 容: 金利の期間構造の理論に関する学修に備え、債券の利回りについて復習します。債券と対比させつつ、株価決定の理論についても復習します。 参考書1の5章
第2回	テーマ(何を学ぶか): 金融経済学Ⅰの復習(2) 内 容: 金利の期間構造の理論に関する学修に備え、金融市場における裁定取引について復習します。 指定図書の9章
第3回	テーマ(何を学ぶか): 民間銀行の利鞘 内 容: 民間銀行、特に、いわゆる地域銀行の金融仲介業務における利潤の源泉ともいえる利鞘について、金利の期間構造の理論と関連させて学修します。 指定図書の8章と13章
第4回	テーマ(何を学ぶか): 金利の期間構造の理論 内 容: 金利の期間構造の理論には大きく3つの仮説があり、その各々について学修します。その上で、イールドカーブを導出し、その見方についても学修します。 参考書1の5章
第5回	テーマ(何を学ぶか): 民間銀行の機能と取り付け騒ぎ 内 容: 民間銀行の基本的な機能を学びつつ、信用創造の意義について学修します。また、高校生の何気ない会話が金融機関を危機においやったという事例を取り上げ、民間銀行の機能に由来する問題として、取り付け騒ぎについて学修します。 指定図書の8章と13章
第6回	テーマ(何を学ぶか): 中央銀行の役割 内 容: 次回以降に学修する金融政策の担い手たる中央銀行の役割について学修します。 指定図書の12章と14章、参考書2の11章
第7回	テーマ(何を学ぶか): 貨幣の理論 内 容: マクロ経済学でも学修した貨幣需給に焦点をあて、貨幣の諸理論を学修します。 指定図書の12章、参考書2の10章

第 8 回	テーマ(何を学ぶか): 伝統的な金融政策と金融政策の有効性 内 容: マクロ経済学で学修した IS-LM 分析に基づいて金融政策の有効性を確認します。ここで重要なのは、金融政策の有効性がどのような場合に限定的となるのかということや、政策変数をどのように決定するのか(裁量的かルールに則るのか)ということです。特に、ルールについては通貨量や金利操作の視点から考えてみましょう。 指定図書の 12 章、参考書 2 の 12 章
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): 金融政策の目的、最終目標、手段 内 容: 第 8 回の学修内容を踏まえ、金融政策の目的や最終目標、様々な手段について学修します。その上で、我が国の政策金利の水準の推移を確認し、政策金利がゼロに近づいた場合に取得する金融政策について考えてみましょう。 指定図書の 12 章
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 非伝統的金融政策 内 容: 第 9 回の学修内容を踏まえ、1999 年以降に見られる非伝統的金融政策の仕組みや効果について学修します。 指定図書の 12 章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 資産バブルと金融危機 内 容: 我が国において 1980 年代後半から 90 年代初頭にかけて見られた資産バブル、1990 年代後半に顕在化した金融危機、米国において 2000 年代半ばに見られた住宅バブルと世界金融危機が経済に与えた影響やそこでの対策について学修します。 指定図書の 13 章
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 金融秩序を維持するためのプルーデンス政策 内 容: 金融秩序を脅かすような問題(取り付け騒ぎなど)に対し、予防的な(事前の)プルーデンス政策と、問題発生後の損失の最小化に向けた(事後的な)プルーデンス政策があり、それらの意義と課題について学修します。 第 11 回目の授業では、第 10 回目までの内容についてクイズ及び解説を実施します。 指定図書の 14 章
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 事前のプルーデンス政策 内 容: 第 11 回目の学修を踏まえ、事前のプルーデンス政策である「参入・業務分野規制」や「自己資本比率規制」について学修します。 指定図書の 14 章
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 事後のプルーデンス政策 内 容: 第 11 回目の学修を踏まえ、事後のプルーデンス政策である「救済・合併」や「預金保険制度」について学修します。 指定図書の 14 章
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): これからの金融 内 容: これまでの学修内容が当てはまりにくいような新たな変化が金融の世界で見られ始めています。ここでは、特に、「ダイベストメント」や「ソーシャルファイナンス」について学修します。 指定図書の終章
試 験	期末試験(主として択一式で、記述問題もある)を実施します。